垂高が危ない！

県教育委員会は活力ある高校づくりを目的に、
適正規模に満たない高等学校の整理統廃合の基準等を
盛り込んだ「かごしま活力ある高校づくり計画」を
策定しました。
市内唯一の高等学校「垂水高校」もこの基準内にあり、
存続問題がクローズアップされています。
県内の整理統廃合の動きについては、
今年９月整理統合基準に該当していた笠沙高校が
2006年に閉校することが決まりました。
また、11月にはこの基本計画を踏まえ、
出水学区の長島高校、阿久根高校、阿久根農業高校、
薩摩学区の宮之城農業高校、宮之城高校の
再編整備計画が示されました。
市報たるみずでは、この問題について、
今月号と２月号の２回にわたり特集します。

「垂水市から高校が消える」

みなさんもこの問題について、考えてみませんか。

第一章

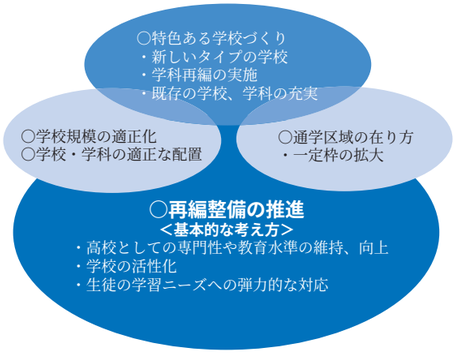
かごしま活力ある高校づくり計画

県教育委員会が示した高校改革とは？

（本県高校教育が直面している諸課題）
●社会情勢の変化　●多様な学習ニーズ　●大幅な生徒減少

↓

かごしま活力ある高校づくり計画
～生徒一人一人が夢に向かって
生き生きと学ぶ高校づくりをめざして～

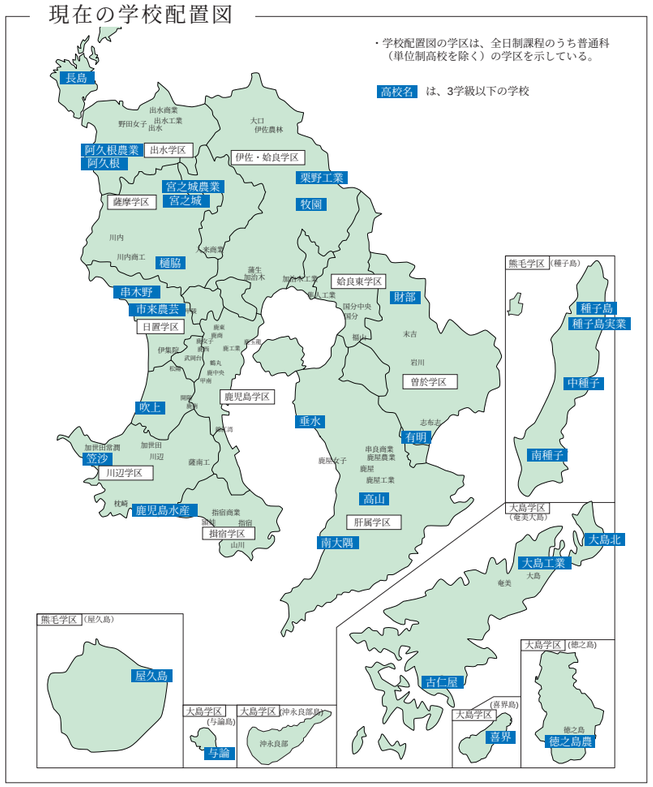


↑

総合的な人間教育の場としての機能の充実、活性化
職業観・勤労観、社会性・倫理性の育成等
学習指導・進路指導の創意工夫、基礎・基本の徹底

教職員一人一人の資質の向上

現在の学校配置図



活力ある高校づくりを目標に

平成13年３月、鹿児島県教育委員会は、社会情勢の変化、多様な学習ニーズ、大幅な生徒減少などを背景とする本県高校教育の諸課題に適切に対応し、活力ある高校づくりを進めるため、県内各界の有識者からなる県公立高等学校改革推進協議会を設置し、今年２月「新しい時代に対応した公立高等学校改革の在り方について」という最終報告を行いました。

そして、今年10月、これらを踏まえた「かごしま活力ある高校づくり計画」を策定しました。

この計画によると、将来的なニーズや地域の状況等を見通し、学校規模の適正化や学校・学科の適正な配置を進め、また、多様な学習ニーズに対応する「総合学科の高校」や「総合選択制の高校」等の新しいタイプの学校を設置・導入し活力ある高校づくりを推進していくとなっています。

1学年４～８学級が適正規模

学校規模の適正化については、1学級40人定員として、1学年４～８学級という具体的な数値が明記されました。今年４月現在、この適正規模に満たない1学年３学級以下の公立高校は82校中29校あります。（左図参照）

これらの学校は、長期的・全県的な視点に立ち地域の特色や配置バランスを考慮し、平成22年度までに17校減らし、65校程度に再編整備することとしています。

垂水市に与える影響は？

垂水高校がなくなると垂水市民にとってどのような影響があるのか、まとめてみると次のことがいえるでしょう。

①普通科への通学が遠くなる

普通科全日制課程の肝属学区では、通学面を考慮すると、男子は鹿屋高校、女子は鹿屋高校、鹿屋女子高校しか受験できません。（ただし、牛根地区は国分高校、福山高校が受験できます。）ほかは当面、鹿児島市、国分市等の普通科高校の一定枠「募集定員の5～10％枠」に挑戦することになります。

②経済的な負担が増す

垂水市外の高校に通学するには、授業料のほかに通学のためのバスや船の定期代が必要になります。

（参考）
○垂水中央～鹿屋高校
バス代15720円
○垂水中央～鶴丸高校
バス・船代計17400円

③時間的な余裕が少なくなる

バスや船などを使って通学すると相応の時間が必要になり、本人や家族にとっても時間的な余裕が少なくなります。時間にゆとりがなくなることから身体的に負担がかかったり、部活動やボランティアなど様々な体験をあきらめなければならなかったりすることも出てきます。

④地域の活気がうすれる

高校生が地域で活動することは地域に活気を生み出しています。近くに高校がなくなると身近で元気のある高校生と接する機会が少なくなり、活気がうすれることも考えられます。

整理統合基準

中学校卒業予定者の推移などから、将来にわたって、1学年3学級以上を確保するだけの生徒数が見込まれず、かつ、下記のいずれかに該当する全日制課程の本校又は分校は、原則として廃止する。

①学級数が全学年で3学級以下の状態の場合
②学級数が全学級で4～5学級の状態が2年間続いた場合
③学級数が全学年で6学級の学校で、毎年度の5月1日現在における全学年の在籍者数が、募集定員の3分の2以下の状態が2年間続いた場合
④上記②または③に掲げる状態が2年間続いた場合

垂水市の考え方

これから高校で学んでいく子どもたちとその保護者、そして垂水市民のために、垂水高校を存続させる必要があります。

当面は3学級の生徒数確保

先に述べた県教委の「再編整備の指針」によりますと、近隣に複数の学校が配置されている場合、再編整備が行われることになっています。近隣に高校のない垂水高校が、再編整備が行われるとすれば「整理統合基準」による整備が考えられます。

垂水高校は、各学年とも普通科2学級（定員80人）、生活デザイン科（定員40人）の合計3学級です。平成15年度の入学者数は、普通科57人、生活デザイン科31人の合計88人でした。そのうち垂水市内の中学校卒業者は60人でした。ここ数年、垂水市内の中学校卒業者の25％程度しか垂水高校に進学していない状況です。

今年の中学卒業予定者は、205人、平成17年には157人の見込みで少子化による生徒数の減少は避けられません。そこで、現状の垂水高校への進学率25％を40％、特に普通科を希望する人の60％が垂水高校に進学すれば、1学年3学級を維持できるのではと推測されます。

根本は魅力ある学校づくり

根本的には高校自体が魅力あるものでなければなりません。地域や社会のニーズ、そして生徒の学習意欲に対するニーズに応えた学校づくりを地域と一体となって進める必要があります。

現在、垂水高校の振興支援と地域と連携した教育活動の推進を目的に、市内の各界代表者で構成する「鹿児島県立垂水高等学校振興対策協議会」が組織され、様々な活動がはじめられています。

垂水高校も学習指導の充実や部活動・生徒会活動などの諸教育活動が活発になり、国・公立大学をはじめ、諸大学や専門学校への進学率も上がったり、多くの大学からの推薦依頼もあったりするようです。また、就職率も上向きのようです。

一方、平成14年度に垂水高校が行った、市内全中学生・保護者を対象に学科再編等に関するアンケートの結果によると、垂水高校に設置してほしい学科として、情報・福祉系の学科の設置を望んでいることがうかがえます。ほかの地域にない特色ある学科を設置することで、市内からだけでなく、市外からも多くの入学希望者が増えることが予想されます。

この学科再編等については、現在のところ大変厳しい状況かもしれませんが、市民一体となって、特色ある垂水高校づくりに協力していく必要があると考えています。

垂水高校に設置してほしい学科

保護者割合（%）			生徒割合（%）	
情報系	25.5	1位	情報系	19.0
福祉系	24.0	2位	普通系	16.4
工業系	12.5	3位	工業系	14.6
普通系	11.9	4位	福祉系	13.5
看護系	11.9	5位	看護系	11.1
商業系	9.6	6位	商業系	10.4
家庭系	2.2	7位	家庭系	8.0
水産系	1.5	8位	水産系	3.7
農業系	0.8	9位	農業系	3.3

※平成14年度垂水市全中学校アンケートより（垂水高校提供）

みなさんの声を

この存続問題について、今回、県の考え方、垂水市の考え方等を紹介しました。

今回の特集をお読みになって、感想をお聞かせください。そして、魅力ある「垂水高校」をつくっていくためのご意見をお聞かせください。

市報たるみず2月号では、この垂水高校の存続問題について、みなさんの声をできるだけ多く紹介する予定です。

■ご意見・ご感想
〒891-2192
垂水市上町114番地
垂水市総務課秘書広報係
（内線221・271）
e-mail:
hisho@city.tarumizu.kagoshima.jp

歴史と伝統ある垂水高校

垂水市長
水迫 順一

垂水市民は、今日まで築かれてきた歴史の中で第十代領島津貴澄の文行館創立をはじめ、元来学問を重んじる風土の中で育ってきました。

そのような中にあって、垂水高校は創立来78年という長き、重き歴史と伝統をもった学校で、多くの卒業生を輩出し、社会でのご活躍の様子を耳にするところです。

この垂水高校が今、存亡の危機に立たされております。

我がまちの将来像を描く上で、欠くことのできないこの学校を無くすことは、市民にとって多大な損失であります。

垂水高校の存続のために、ぜひとも市民のみなさんのご理解とお力添えをいただきながら活動して参りたいと思っております。

地元の高校へ進学させよう！

垂水高校振興対策協議会長
川畑 三郎

垂水には、アメリカ合衆国が独立した年に薩摩藩二番目の藩校「文行館」が設立され、伝統的に文化や学問を大切にする気風が育ちました。つまり、わが垂水市は、昔から学問を尊び、文化の香り高い伝統と歴史の街なのです。

このような風土の中で、市内唯一の垂水高校は、幾多の優秀な卒業生を輩出した伝統校として、今日まで発展してきましたが、新聞紙上でご案内のように、今日その存亡が危ぶまれています。高校がなくなって一番痛手を受けるのは垂水市民です。だから、垂水高校をなくしてはならないのです。そのためには、市民がこぞって子弟を地元の高校へ進学させようという意識を持つことと、垂水高校が魅力ある高校になるよう努力することなのです。

今私たちにできることは、今年の中学校卒業生の60％が垂水高校を受験するようにお願いすることです。市民の皆さんのご理解ご協力を心からお願いします。

鹿児島県立
垂水高等学校

学校の概況

大正14年に高等女学校として開校し、今年で創立78周年を迎える歴史と伝統のある学校である。既設の家政科に替えて、平成３年には県下で唯一の生活デザイン科が新設され、ユニークな学習活動を展開している。

学校は閑静な住宅地にあり、周囲には歴史的な建造物、史蹟が多く、教育環境に恵まれた自然環境豊かな地域にある。生徒は概ね温順な生徒が多く、生徒・職員が一体になって『和・学・行』の校訓のもとによりよい校風の樹立に努めているはつらつとした学校である。

卒業生数（平成15年３月31日現在）
男3,089人　女6,434人　合計9,523人
位置：垂水市中央町14番地
課程：全日制　普通科（６学級）
生活デザイン科（３学級）

沿革の概要

大正14年２月	鹿児島県肝属郡垂水尋常高等小学校併設実科高等女学校として文部大臣認可
大正14年４月	１学年31名入学
昭和６年５月	本館落成式挙行（５月28日：設立記念日となる）
昭和18年６月	鹿児島県垂水高等女学校と改称（４月１日付）
昭和23年４月	県立移管と同時に新学制に伴う高等学校に移行
昭和23年10月	校章並びに胸章制定
昭和30年９月	創立30周年式典挙行・校歌制定
昭和31年４月	鹿児島県立垂水高等学校と改称 全日制家庭科新設
昭和38年４月	家庭科を家政科に改称
昭和40年11月	創立40周年式典挙行・校旗制定
昭和50年11月	創立50周年式典挙行
昭和60年11月	創立60周年式典挙行
平成３年４月	学科再編成により家政科募集停止 生活デザイン科設置
平成７年11月	創立70周年式典挙行・校訓制定 記念碑建立

第二章
垂水高校は今…

魅力ある学校づくりへの取り組みを探る

今、垂高は「垂高ルネッサンス」即ち「往年の名門垂高復活」を目指して頑張っています。

例えば、国公立大学進学希望者は朝課外、放課後や長期休業中の個人指導体制を確立しています。

往年の「名門垂高復活」を目指して

県立垂水高等学校校長
矢神 純孝

平成12年度鹿大法文、13年北九大英文、14年度鹿大工、農と２人が合格し、３年連続国公立大学合格の実績をあげています。今年は自衛隊受験３人で３人とも合格しています。

部活動では、今秋の卓球女子の新人戦で強豪城西高に惜敗しましたが、シングルス・ダブルス共にベスト16でした。野球、サッカー、バレー、テニス、弓道、吹奏楽部等毎日一生懸命練習し、力を付けています。

先生方は、学習、部活、資格取得、生徒指導面で地区内の高校には決して引けを取りません。

最近、垂高生のお誉めの言葉を電話等で多く頂いています。

朝課外、朝読書から始まり、落ち着いた雰囲気の中で、生徒・先生間の絆の深い家庭的な垂高です。

中学生の諸君！夢実現のため、君を大事にする垂高で実りの多い高校生活を過ごしませんか！

現在の学校づくりへの取り組み

垂水市は、垂水島津家や新城島津家の領地として栄えてきました。明治維新後は最初に郷校が設立されるなど、歴史的にも栄えてきた古い町の一つです。

垂水高校は、そのよき歴史的・教育的伝統と風土に恵まれ、今日までに９５００有余の優れた人材を輩出してきた80年の伝統を誇る高校であり、垂水市民全体の財産ともなっています。

最近は社会情勢の変化、多様な学習ニーズ、大幅な生徒減少などの影響を受け、生徒数が少なくなってきました。小規模校ではありますが、生徒たちはお互いに切磋琢磨しあいながら、生徒一人一人の夢実現に向かって、地域と一体となって生き生きとした教育活動を展開しています。

◎特色ある学校づくり

①授業を大切に

たとえ１時間であっても授業を無駄にすることができないという大前提に立ち「授業を大切に」「分かりやすい授業」をモットーに学力の充実に取り組んでいます。学習につまずく生徒には習熟度別授業や少人数授業を、国公立大学進学を目指す生徒には課外や個別指導体制による学力向上対策をとるなど、それぞれの個性を生かした授業の展開に努めています。

②各種検定・資格取得への挑戦

漢字能力・実用英語・情報処理・ワープロ検定等をはじめ、生活デザイン科特有の被服製作・食物・調理等の各種技術検定にチャレンジし、近年合格者が増えています。

③「心に届く生徒指導」の推進

遅刻・欠席はもとより、服装・容儀・あいさつ・清掃にいたるまで基本的生活習慣の確立に向けて、全職員一体となった生徒指導を推進しています。

④史蹟めぐり

垂水市内の史蹟をチェックポイントとして20㎞を踏破することを目的とした学校行事で、本校の伝統行事として定着し、青春のよき１ページとして生徒たちの思い出となっています。

⑤インターンシップ

２年次に垂水・鹿屋・鹿児島市内の企業の協力を得て、インターンシップ（職場体験学習）を実施しています。早期の職場体験を通して、就労の意義を理解するとともに進路指導における意識付けを行うことに役立っています。

平成15年度の重点課題

◎生徒募集対策
- 進路の確保及び国公立大学合格の実績づくり
- 中高連絡会及び地域との連携充実
- 部活動等による学校活性化
- 学校理解促進（広報・教育内容の自己評価）等

◎学力の充実
- 進路指導体制の確立
- 朝読書、宅習習慣の確立
- 習熟度、ティームティーチング
- 総合学習等による基礎学力の定着
- 朝課外、長期休業中の課外の実施
- 個人指導体制の確立
- 資格取得指導の徹底
- 進路指導部と各学年及び各教科との連携の工夫
- 成績不振者への学期ごとの指導の工夫

◎基本的な生活習慣の確立
- 先ず１ヵ年皆勤の励行
- 清楚な身なり
- 挨拶励行運動
- トイレを毎日きれいに掃除できる生徒の育成
- チリのない清掃の行き届いたきれいな学校
- 高校生らしい男女交際
- 指導にのりにくい生徒への対応

◎教育課程の検討
- 進学コースの理系大学への対応策
- 情報コースの社会で通用する資格取得への対応策
- 生活デザイン科の衣食のプロの育成
- 特色ある学校づくり

山本 善樹先生
○教務主任
○地歴公民科
○垂水高４年目

悪びれた風もなく、堂々と遅刻してくる生徒。刹那的な生活を送る生徒。というのが数年前の本校の生徒であった。それが現在、遅刻者が珍しくなり、夢を語る生徒が増えてきた。

生徒・職員・保護者が一丸となって変革を求めた結果だと思う。

生徒の声「垂高も良いよね」がそれを表しているように思う。今、まさに新生垂高への羽化の時。夢、膨らむ今日である。

柴 弘美先生
○進路指導主任
○英語科
○垂水高２年目

小規模校の良さは、生徒の利益を中心に据え、可能性を開花させるため教職員がていねいに向き合うことです。今、インターンシップ（職場体験）、職業分野学習会（14講座）、進路講演会など人生を価値的に創造する取り組みを進めています。国立大学にも連続合格を果たし、就職先で懸命に頑張っている生徒もいます。卒業後の生徒の幸福が学校の喜びです。生徒一人一人の夢の実現に協力を惜しまないのが垂水高校です。

評判が悪いのは作り話。ホントいい学校だって。

現在、垂水高校に通っている生徒たちは、この問題について、そして垂水高校について、どのように考えているのでしょうか。
生徒会役員５人に登場してもらい、ディスカッションしてもらいました。

ディスカッション

高野：今日、みんなに集まってもらったのは「垂高がなくなるかも」という話を聞いて、ぼくらでイメージアップを図りたいと思ったから。まず、みんなにこの話の感想を聞きたいんだけど。

高橋：なくなるかもという話は聞いてたけど本当だったの？

松崎：まだ決まってないんじゃないの。

永吉：自分たちの出た学校がなくなるのはさびしいよねー。

紺屋：だよねー。

高野：こんな話が出ること自体つらいね。じゃ、次に垂高に入学してよかったと思う？

永吉：垂高は評判が悪いって聞いてたけど、入学してみるとみんな服装とかまじめで、授業も楽しいよね。

高橋：自分の時間がとれるのがいい。市外の学校に通う友だちは結構つらいらしいよ。

紺屋：だからー、本当楽しい毎日を過ごしているって感じかな。

松崎：部活もわきあいあいとできて、やりやすいよねー。

高野：入学してみると意外とよかったよね。授業で分からなかったところも放課後マンツーマンで指導してもらっているよね。

高橋：おれも何回かあるなぁ。

松崎：おれもやろうかな。やっぱり、やめとこ。

永吉：先生と生徒の仲がいいよね。クラスマッチとかあつくないけ？

紺屋：だからよー。

高野：学校に注文をつけるとしたら。

高橋：売店がほしい。

松崎：バイク通学を認めてほしい。

永吉：この２つが改善されたらベストだけどね。

高野：最後におれたちの後輩たちに一言ずつおくろうや。

松崎：垂高は、ほかの高校より絶対楽しいと思います。がんばって垂高に入学してください。まってますよ。

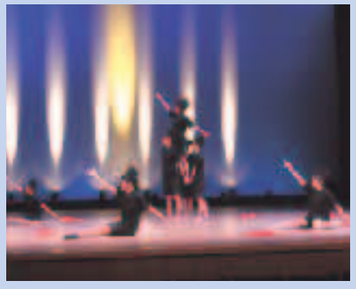
紺屋：高校進学で悩んでいるみなさん、地元垂水を活性化させるためにも候補の一つに入れてみればどうですか？垂水高校ホントいい学校です。多くの方が入学してくれることを待ってます。

高橋：垂水高校は「悪い」というイメージがあると思いますが、イメージと違って、とても明るく平和な学校です。ぜひ垂高に入学してください。

永吉：すっごいガラ悪いとかは、ただの作り話だって。まじ、制服とか普通にまじめに着てるし。悪いこととかしないしね。２つの科があるけど、どっちかというと生活デザイン科の方が色んな検定が取得できるから自分のためになるよ。ホントいい学校だって。入ってきたら分かるよ。まじ楽しいよ。垂高でがんばろうよ・・・その前に受験勉強ファイトね！

高野：ということで、悩んでいるなら、ぜひ垂高へ。一緒に楽しい高校生活をおくりましょう!!

垂高トピック



■創作ダンス／市文化祭で発表

■史蹟めぐり／高校生活のよい思い出づくり

■各種検定合格者／生徒のために学校をあげて取りくんでいる

■定期演奏会／卒業生も飛び入りで参加していた

■クラスマッチ／一致団結して勝利をめざす

高野 裕輔（たかのゆうすけ）
垂水中学校卒
S61・7・12生

彼はこんな人：
見かけによらず、すべてにおいてマジメです。あと、スポーツ万能です。（松崎談）

永吉 未来（ながよしみらい）
大野中学校卒
S61・10・6生

彼女はこんな人：
バレー部のエースです。かなりのしっかり者で助かっています。（紺屋談）

松崎 俊樹（まつさきとしき）
牛根中学校卒
S61・10・25生

彼はこんな人：
いつも明るくて楽しい奴！野球部の４番を務める頼れる男。まさに男の中の男!!（高橋談）

紺屋 小百合（こんやさゆり）
協和中学校卒
S61・8・27生

彼女はこんな人：
バレー部のキャプテンをしており、チームを明るく、時には厳しく引っ張ってくれるしっかり者です。（永吉談）

高橋 利也（たかはしとしや）
垂水南中学校卒
S61・11・28生

彼はこんな人：
生徒会一優秀boy！
野球部副キャプテンもしていてまさに垂高の"鏡"（高野談）